

本委員会の進め方について

2022.7.13
令和4年度第1回 久御山中央公園再整備検討委員会

【目的と内容】

■ 中央公園再整備の目的

- 住×農×工の交流によりまちの活性化を図ろうとする「久御山まちのにわ構想（R1.2）」の具現化
- CCAC構想に基づく、誰もが憩いゆったりと過ごせ、子ども達が自由に遊べる機能・施設を持つ公園の整備
- 荒見都市下水路流域の内水排除対策を目的とした防災機能の付与（調整池の整備）
- 運動施設機能の充実による公園の価値向上（調整池整備に伴うグラウンド再整備等）



■ 中央公園再整備の内容

- 北側広場・庭園部分の大幅改修
- 運動施設エリアのリニューアル・充実化
- グラウンド下への調整池機能の追加

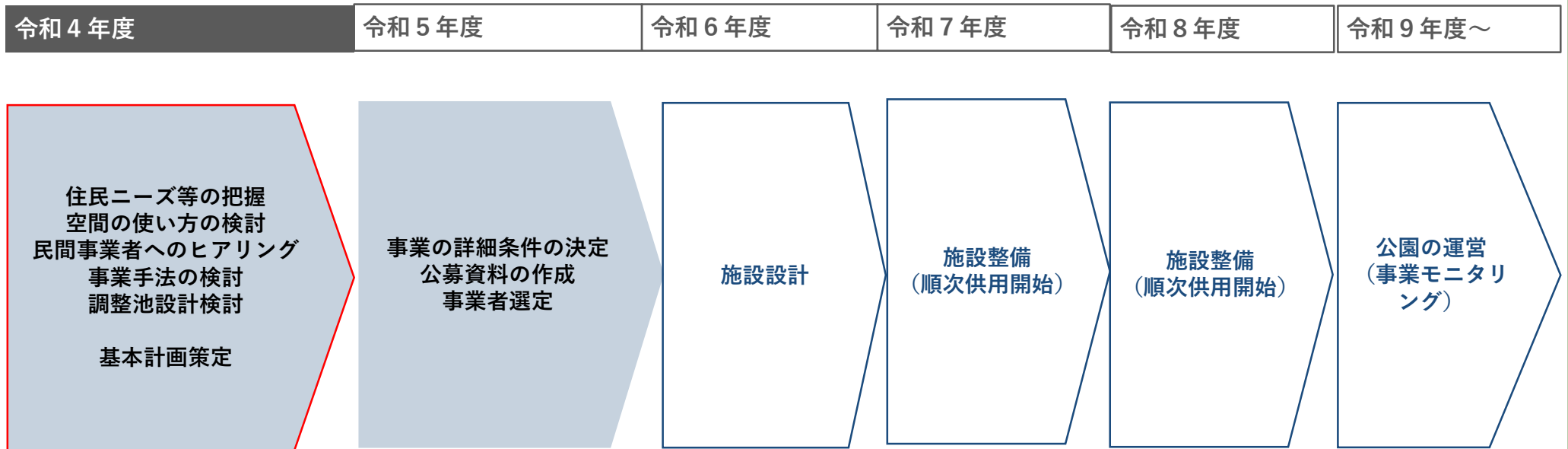
- 子どもから若年層、高齢者まで、障がいのある人もない人も、憩い、楽しみ、交流出来る公園づくり
- 地域住民の主体的な活動を通じ、まち全体の活性化につながるような場（きっかけ）づくり

【これまでの経緯】



【想定スケジュール】

■ 再整備に係る想定スケジュール



- 中央公園再整備は「官民連携手法」による実施を想定しています。
- 詳細な設計や効率的・魅力的な運営方法は、来年度に実施予定の事業者選定プロセスによって選定する「民間事業者」に行って頂きます。
- 本委員会では、その前提で、「どんな使われ方が良いか」「どんな公園にすべきか」「民間事業者に何を願いますか/出来そうか」をご議論頂きます。

【本委員会での議論の視点】

- 「どんな公園が良いか」 = 「将来どんな人がどのように使う公園が良いか。」

≠ 「公園にどんなものがあれば良いか」

<議論における視点の例>

- 「将来中央公園がどうなっていたらいいか」
- 「どんな公園を子どもたちに残したいか」
- 多くの人アイデアと工夫で様々な使い方が出来る公園
- 多くの住民が単に「利用者」としてだけでなく、「企画者」や「運営者」としても関わる公園
- 公園への関わりを通じて、まちづくりにも積極的に関わる「人づくり」にも繋がる公園

【再整備基本計画の構成案】

■ 第1章 計画の背景

- ・久御山町の概要、久御山まちのにわ構想における位置づけ等

■ 第2章 前提条件の整理

- ・敷地に関する条件、近隣の状況、公園の利用状況（荒見苑含む）、官民連携方式の導入検討等

■ 第3章 中央公園に対する住民の期待

- ・住民ニーズ調査の結果まとめ、検討委員会における主な意見、中央公園再整備の方向性等

■ 第4章 中央公園の役割・コンセプト

- ・中央公園の役割と位置づけ、コンセプト、運営と官民の役割分担についての基本的な考え方等

■ 第5章 中央公園再整備の基本的な考え方

- ・空間の使い方、導入機能の考え方等

■ 第6章 民間事業者の参入意向

- ・民間事業者へのプレ・サウンディング結果概要、結果から得られる示唆等

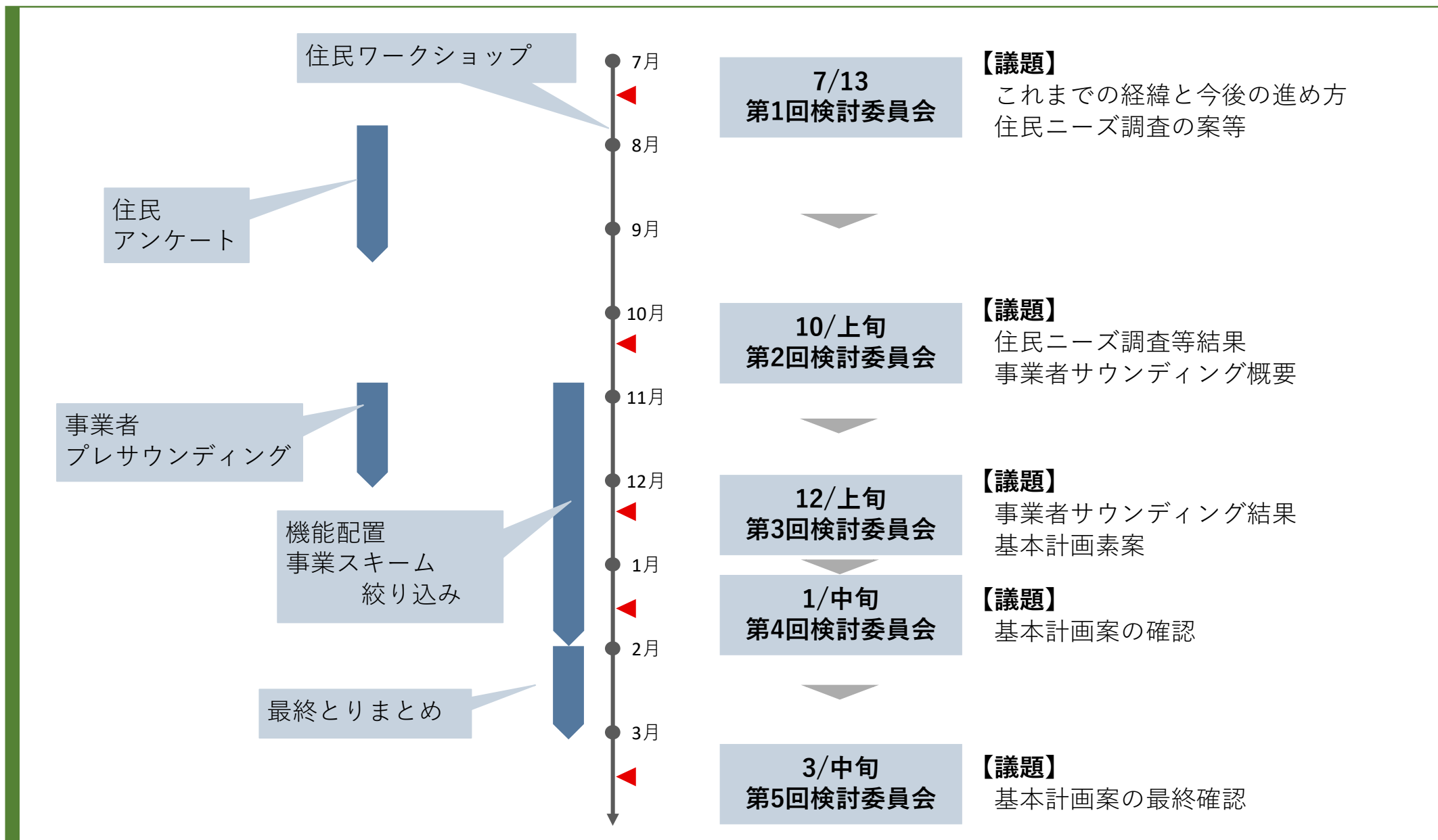
■ 第7章 事業方式の検討

- ・官民連携による事業手法の検討等

■ 第8章 まとめ

- ・今後のスケジュール案

【委員会スケジュールと想定議題】



【調整池の整備】

■ 大雨時の浸水被害対策

- ・ 久御山町では、10年に1度の大雨時に、市街地において浸水被害が発生することから、都市下水道事業によって各地の浸水被害対策に取り組んでいます。
- ・ 久御山中央公園の属する荒見都市下水道下流域の浸水被害の回避のためには、一時的に雨水を溜め込むための「調整池」の整備が必要ですが、付近に適当な整備用地が見当たらないことから、中央公園の再整備に併せて公園内の地下に埋設型の雨水貯留施設を整備し、浸水被害の発生を回避することとします。

